

調査概要

〔目的〕

遺伝子組換え表示制度の在り方の検討に当たって、遺伝子組換え農産物及び非遺伝子組換え農産物の流通及び分別生産流通管理(IPハンドリング)の実態の確認、現行の制度と遺伝子組換え農産物の生産・流通の実情との整合性について、検証を行った。

〔調査対象先〕

○(米国・カナダ) 計31か所
生産者9か所、カントリーエレベーター5か所、リバーエレベーター10か所、エクスポートエレベーター4か所、種子会社等3か所

○(国内)

港湾サイロ8か所(大豆・トウモロコシそれぞれ4か所)

〔調査方法〕

現地を訪問してのヒアリング調査及びサンプリング調査

〔期間〕

平成28年6月27日～同年12月28日

〔委託先〕

一般財団法人 食品産業センター

〔入手サンプル〕

※Non-GM: 分別生産流通管理された非遺伝子組換え農産物
GM: 分別生産流通管理されていない遺伝子組換え農産物

(検体数)	Non-GM大豆	GM大豆	Non-GMトウモロコシ	GMトウモロコシ
米国	9	10	14	11
カナダ	4	0	0	0
日本	5	0	4	1
合計	18	10	18	12

調査結果

〔ヒアリング調査〕

○米国及びカナダから輸入される大豆及びトウモロコシの分別生産流通管理は、平成13年に構築され、現在も機能している。

○また、米国及びカナダでは、各流通段階で受入検査を実施することにより混入率を確認しており、結果として意図せざる混入率5%が遵守されている。

(注)本調査に携わった事業者等から、「トウモロコシは、風媒により交雑しやすいこと、1粒中に複数の組換えDNAが存在するスタック品種が多いことなどにより、大豆に比べて混入率が高い点には注意が必要」とのコメントがあった。

〔入手サンプルの遺伝子組換え農産物の混入率結果〕

※Non-GM: 分別生産流通管理された非遺伝子組換え農産物
GM: 分別生産流通管理されていない遺伝子組換え農産物

(%)	Non-GM大豆	GM大豆	Non-GMトウモロコシ	GMトウモロコシ
最大	0.3	118	4.1	488
最小	検出せず	88	検出せず	199
単純平均	0.1	105	1.0	304

※上記調査は組換えDNAをそれぞれ定量して合算する「スクリーニング検査法」による。GMトウモロコシの混入率が100%を大きく超えているのは、1粒中に複数の組換えDNAが存在するスタック品種が含まれているためと考えられる。